

着物と私(7)

「着物のイメージ」

圓井 礼佳



皆さんはどのようなイメージを着物にお持ちですか？初めて私が着物を見たときの印象は「窮屈な服」というものでした。しかし今の私が着物に持つイメージは「きれいで動きやすい服」や「華やかな服」です。このコーナーを代々書かれてきた先輩方のように私には着物の知識がないので、今回は私が着物を着たり見たりして感じた着物のイメージについてご紹介させていただきたいと思います。

皆さんも着物のイメージはどのようなものかと言われれば、まず「窮屈そう」に始まり、「動きづらそう」・「着るのに手間がかかりそう」などを挙げる人が多いと思います。実際私も窮屈で動きづらい服だという印象を持っていました。そのため、普段は極力着物を着ないようにして、七五三のときでも袴やスーツを着ていました。

そんな私のイメージを変えるきっかけになったのは、中学校の時に留学に行くのに日本の文化のことを勉強して行った方がよいという先生方の計らいで行われた着物の「着付け教室」でした。着物の着付けに詳しい茶道部の部員の人や着付けの得意な先生が中心になり、私たちに着付けの手順などを教えて下さいました。はじめは上手くないし、苦しいとなげ出しそうになったときに茶道部の友達が、こうしたら苦しくなくて、動きや

すいよとアドバイスしてくれました。その通りに着てみると苦しくないし、動きやすいのです。この時から私の着物にたいするイメージは少しずつ変わって行きました。

「華やかな服」というイメージは成人式や結婚式のときに出来上がりました。着物とドレスを比べると、着物は華やかさに欠けるといわれます。理由の一つに着物はドレスと違い、だいたいどれも同じような形ということが挙げられます。しかしそれを補うように、大きく色鮮やかに柄が描かれています。花柄だったり、古典的な模様の柄だったりといろいろなバリエーションがあります。さらに現在は現代柄という新しい柄なども描かれています。着物は、柄のほかに、帯や襟元の組合せでも変わってきます。ドレスとは違った別の華やかさが柄、帯、襟元から私には感じられました。

着物を着たり見たりして、私の着物に対するイメージは180度変わったといってもよいでしょう。今の世の中、着物にふれあう機会は本当に少ないですが、一度着付け体験教室などに行って着物を着てみてください。きっと今までのようなイメージとはまた違った着物の見方ができるのではないのでしょうか？

まるい あやか（日本語学科3年次生）